



2023年7月14日
株式会社沖縄ホーム
沖縄電力株式会社
沖縄新エネ開発株式会社

沖縄ホーム食品工場における かりーるーふ（太陽光第三者所有モデル）の運用開始について

この度、株式会社沖縄ホーム（代表取締役社長 嘉数光広 以下、沖縄ホーム^{※1}）において、沖縄電力グループの沖縄新エネ開発株式会社（代表取締役社長 嘉味田朝紀 以下、沖縄新エネ開発）が手掛ける「かりーるーふ^{※2}（太陽光第三者所有モデル）」の運用を開始しました。

沖縄ホームでは、2020年に新築された食品工場において、蒸気ボイラの燃料に液化天然ガス（LNG）を採用するなど、環境負荷低減に積極的に取り組んできました。

今回は、沖縄新エネ開発が初期費用ゼロで同食品工場へ太陽光発電設備（185kW）を設置し、発電した電力を工場内の冷凍・冷蔵施設等で利用することで、年間約254t（杉の木約2万9千本分）のCO2削減が見込まれます。さらに、台風等の災害による停電時は、太陽光発電設備から蓄電池（13.5kWh）に充電された電力を工場事務所で使用することで、従業員の安全・安心の確保や、BCP（事業継続計画）機能の強化を図ります。

県内の食品製造業として初めての「かりーるーふ」導入であり、モデルケースとなります。これは、沖縄電力グループが目指す「2050年CO2排出ネットゼロ」の実現に向け、再エネ主力化を一層推進する取り組みにもなります。

3社は本サービスの導入を通して、今後も沖縄県の持続可能な社会づくりに向けた取り組みを推進してまいります。

※1 「沖縄ホーム」は1959年の創業以来「品質こそ生命」を社是とし、豚肉を中心とする沖縄の伝統的な食文化を大切にしつつ、ホーム・フーズ・コーポレーション（アメリカ）との技術提携によりコンビーフハッシュやスパムなど沖縄の新しい食文化を生み育ててきた。また、HACCP方式のもと、仕入から製造・出荷に至るまで徹底した品質管理に取り組み、安全・安心な県産品づくりに努めている。

※2 「かりーるーふ」は、太陽光発電設備と蓄電池を初期投資ゼロで設置し、発電した電気をお客さまに販売するサービス。ご検討から導入、メンテ、撤去まで沖縄新エネ開発がワンストップで対応する。

